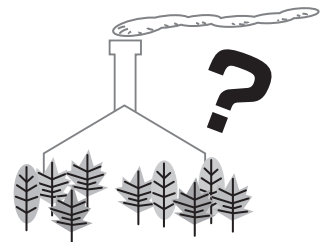


あなたの署名が流れを変える！

50%を超えることによって
行政の対応が変わります。

変わって欲しい。
率直で、建設的な
住民との
話し合いの場を！

現在、全村民の 45% の署名です。



白紙撤回を求める4つの理由

1. 観光客が減少し、“村の観光事業に深刻な影響”を与える
2. “生活環境や安全”をまったく配慮していない
3. 新ごみ処理施設より、観光整備と住民福祉を
4. 用地選定が“不透明”で“疑問と問題”あり



私たちの提案

- “住民と行政の話し合いの場”を！
- “ゴミを減らして”から“ごみ処理施設”を考えよう！

2007年11月

(詳細は、以下をご参照ください)

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会
会長：宮田温巳

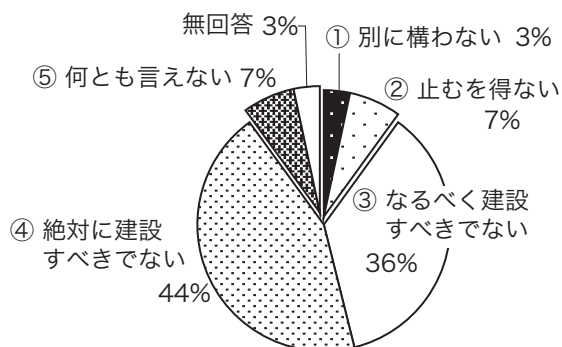
白馬村北城八方口5897-1(たきみや) TEL: 0261-72-2527 FAX: 0261-72-4344

<http://www.hakuba-kaeru.com/>

1. 観光客が減少し、“村の観光事業に深刻な影響”を与える

アンケートによると、「白馬の魅力“自然景観”“澄んだ空気”“村の雰囲気”がそこなわれる」と多くの方が答えており、白馬に来たくなくなるという方もおられます。施設建設が観光客を増やす要因はありませんので、明らかに観光客は減少します。観光白馬にとって深刻な問題です。

設問 5. ごみ焼却施設を白馬に建設することについてどのように思われますか。



この設問に寄せられたご意見（一部）：

- 特に子供達の遊ぶグリーンスポーツの森近くというのは、かなり抵抗感があります。
- 村の雰囲気、景観が崩れる。イメージが悪くなる。

8割の方が建設に否定的（③・④）です。肯定的な「①かまわない」「②止むを得ない」は、併せても1割に過ぎません。多くの観光客の皆様がごみ焼却施設の建設に賛成しないということ、尊重する必要があると思います。

ニュース 13号（2007.10.08 発行）より

2. “生活環境や安全”をまったく配慮していない

(1) 「生活環境の保全を図る」としながら……

- ①白馬村の商業系、住居系の地域はまったく考慮していません。白馬村の住民は無視されています。（大町市の住居系、商業系の用途地域は考慮している）
- ②グリーンスポーツの森は考慮していません。（都市公園は考慮している）

(2) 「防災面への配慮」をずっとしながら……

- ①飯森地区にある活断層から50m離せば安全としています。中越沖地震での柏崎刈羽原子力発電所の数々の事故をみれば、とうてい安全とは言えません。
- ②県の防災マップでの候補地（飯森）の1/2が水害地域に入っていますが、考慮されていません。

(3) 「自然環境の保全を図る」としながら……

- ①「飯森地区」は県条例にもとづく「景観育成重点地域」に含まれており、山岳観光地の景観が保たれるように規定されています。「高さは原則として周辺の樹木の高さ以内に」などを無視しています。
- ②白馬村が定めた「白馬村景観形成重点地域指導基準」（高さ制限18mなど）を無視しています。

(4) 排ガスの影響をまったく検討していません。

- ①排ガスの住民への影響、希少動植物への影響、農産物への影響など、まったく検討しておらず、したがって配慮もしていません。
- ②亜硫酸ガスなどの酸性雨成分は、現状より大幅に増える可能性があります。

3. 新ごみ処理施設より “ 観光整備と住民福祉を！ ”

(1) 財政への影響を検討していません。

ご承知の通り村の財政はひっばく（借金は 100 億円とも 160 億円とも言われている）していて、新たな借金をする余裕などありません。それなのになぜ建設にこだわるのでしょうか。

- ①白馬村はたくさんの借金をかかえ、財政が厳しいからいろいろな予算が削られ、圧縮されています。
- ②ごみ処理施設の**総事業費は 41 億円**とされていますが、**見込んでいない費用もあり**、でき上がりが相当にふくらむことが十分考えられます。
- ③既設の焼却施設はまだ借金が残っていて、**平成 22 年まで毎年 8 千 7 百万円もの返済が必要**です。

新ごみ処理施設を建設したら、**また借金をかかえること**になります。

(2) 既設の焼却施設は、まだまだ使用できます。それを壊すのは “ もったいない ” 。

- ①今の焼却施設は長く大事に使い（H32 まで使用計画あり）、焼却ごみの量を減らして、ごみ焼却にかかる費用をなるべく少なくすべきです。（特に生ごみを減らせばダイオキシン類も大幅に減ります。）

(3) 新ごみ処理施設より “ 観光整備と住民福祉を！ ”

- ①県内で基準地価の下落幅が最大。観光業も低迷しており、村に活気がありません。
- ②ごみ焼却施設は、いくら立派なものを作っても観光客は絶対に増えません。
- ③新ごみ処理施設を作らず、ごみの焼却量を減らし、その費用で**観光事業のため、育児・教育・福祉の充実**など、白馬村の活性化のために使うべきです。

などなど

電線地中化

農業の活性化

4. 用地選定が “ 不透明 ” で “ 疑問と問題 ” あり

情報公開請求で入手した文書などから、多くの疑問と問題が明らかになりました。

(1) ごみ処理施設は、初めから「白馬村・飯森地区」に決めていた？

- ①平成 18 年 10 月 20 日の行政責任者による会議で、建設用地を決めたと推察される文書が公開情報に含まれていました。

そこで、ざっくばらんに白馬村さんにお聞きする訳ですが、...(略)...、建設用地について、白馬村さんにお願いすることができないか。いかがでしょうか。

白馬村さんには、ご無理を申し上げ大変申し訳ないことと存じますが、ただ今白馬村さんからお引き受けいただいたことにより、現在、用地選定委員会で進めております用地選定につきましては、〇〇地区に絞り選定を進めていきたいと思っております。

(公開情報に含まれていた文書の一部より抜粋)

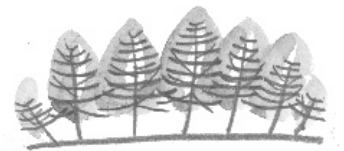
- ②その後コンサルタントへの発注が行なわれ、コンサルタントの主導のもとに、用地選定作業が急ピッチで進められました。



(2) 学識経験者や住民代表を入れて審議した「ごみ処理広域化基本計画検討委員会」の提言「選定作業にあたっては、選定経過を含めて公表し、住民の理解を得ながら実施されたい」が無視され、秘密裏に用地選定が行われました。

- ①広域連合では、用地選定委員に、学識経験者や住民代表を加える予算を組んでいましたが、実際は行政担当者だけの委員でした。
- ②用地選定経過は、住民はもとより広域議会にも知らされず、「飯森地区」への決定は新聞報道で知らされました。
- ③用地選定は、技術的に素人の行政担当者のみで、コンサルタントが提示した用地選定の筋書きを鵜呑みにして行われましたので（公開された議事録で明白です）、これまで述べてきましたように重要事項が何も検討されませんでした。
- ④広域連合は、「ごみ処理広域化基本計画検討委員会」での審議結果を受けて候補地の選定を行なったと主張し、さも学識経験者や住民代表の意見が反映されているかのような印象を与えていますが、この委員会は用地選定にはまったく関わっていません。

提 案



● “住民と行政の話し合いの場” を！

広域連合は計画を白紙撤回(一時凍結)し、住民と「率直で建設的な話し合い」ができる場を設けよう！

● “ゴミを減らして” から “ごみ処理施設” を考えよう！

大町、白馬、小谷のゴミのリサイクル率は、県下で最低レベルです。分別によりゴミを減らし、その上で残ったごみの処理をどうするかを考えるべきです。

(1) ごみ処理施設を、従来のまま大町と白馬・小谷の2ヶ所にする。

平成17年度に国の政策が変わり、ごみの広域処理から廃棄物抑制を目的とした制度になりました。これにより、ごみ処理施設が大町と白馬・小谷の2ヶ所でも交付金の対象となります。

(2) 白馬・小谷は、当分現在の焼却施設を使用する。

寿命が来る大町の処理施設のみ更新し、白馬・小谷の処理施設はまだ寿命がありますので、従来どおり現施設で処理します。

(3) ごみの分別と焼却ごみの減量を行なう。

ごみを分別・リサイクルすることによって、焼却するごみの量を大きく減らすことができるとともに、ごみ焼却にかかる費用を大幅に削減することができます。

ごみの焼却を減らすことは、地球温暖化防止に役立ちますし、時代の流れです。

(4) 残ったごみの最善の処理方法を検討する。

分別で残ったごみをどのように処理するかは、焼却以外にもいくつかの方法が考えられます。まだ時間がありますので、世の中の動向を注視しながら最善の方法を検討しましょう。